

2022年度 こどもの木かげ・玉成幼稚園 自己評価・学校関係者評価

《こどもの木かげ・玉成幼稚園の自己評価》

1. 基本理念・保育方針

■こどもの木かげ 2002 基本理念

『汝らは、地の塩、世の光である』
(マタイによる福音書5章第13節—14節)

キリスト教の愛の精神を基とし、幼な子が、自ら生きる力を高め、豊かな個性を育むことをめざしています。
こどもの木かげ（玉成幼稚園・野のはな空のとり保育園）では、0歳から就学まで一貫した保育方針にもとづき子どもの育ちに取り組んでいます。

■玉成幼稚園 保育方針

個の生活と集団での生活がバランスよく営まれるように配慮しながら、友だちや周りの人たちに受け入れられていることを意識し、お友だちとの相互交渉を通じて「ともに生きる喜び」を身につけられるように育てていきます。

保育は、「子どもの心に絵を描かせる」時間と場所の提供であり、子どもの傍らには子どもを励ます保育者がいて、イメージや想像力をたっぷりと与えてあげられる保育の時間と、子どもが自分であそび、自分で学ぶことができるように工夫された保育の流れをつくっていきます。

こんな子どもに育てほしい・・・アルウィン学園のめざす子ども像

- ①生きる力の礎である「自らの力で探求ししながら人とのかかわりをとおして生きる喜びや自己実現が達成」できるように
- ②「一人一人が違ってよい」興味や得意なことを伸ばし個性豊かになれるように
- ③あそびをとおして感性や知的能力・創造性・社会性を体得できるように

2. 活動状況と自己評価

【基本事項】（こどもの木かげ共通）

◆子どもたちが、自らの力でとりくむ姿勢が育ち、友だちとのかかわりを高め、育ち合っているか

保育者が子どものありのままの姿を受容することで自己肯定感が持てるよう、又、遊びを通して他者の違いを知ってたくさんのぶつかり合いや葛藤を通して悩み考え、やがて理解し合うまでの道すじを大切に保育してきた。

◆子どもたちに豊かな感性が育つようとりくみや自発的なあそびをとりくめるように保育をおこなってきたか

子どもには日々の生活の中で体を通しての実際の経験をたくさん体験させ、水や草花等に触れ空を見上げたり風を感じたりしながら自然の不思議さに気づき、保育者と共に喜び合うことを大切に保育をしてきた。保育者は、個々の子どもたちが遊ぶ様子に思いをめぐらせながら素材や遊具を用意し、今、何を感じ誰とどんな風に関わっているか把握しつつ、一人ひとりを知ることを大切にしてきた。

【重点的に取り組む事項】（今年度の事業計画から）

◆保育センターこどもの木かげと玉成幼稚園のコンセプトを確認し、現実の保育にどうおろしていくか考え実践していく

幼稚園教育要領・新キリスト教保育指針をもとに教育課程を今年度作成できず、それに基づいての教育・保育計画をたてることができなかった。短時間・長時間で行われてきた保育内容・活動を保育者全員が共有し理解し合える組織作りが必要だった。PDCAサイクルについても目標や行動の明確化、課題や問題点の明確化において行うことが不十分だった。

教職員の質向上とワークライフバランスの実現に努める

当初リーダー制を廃止したが、保育者が望んだことによりリーダー制を復活させた。しかし、キャリアの差がありリーダーの負担が大きかった。園全体としてキャリアの有無にかかわらず、それぞれの持てる力を出し合い認め合いながら誰もが問題意識を持ち一人ひとりが成長できるよう、より良い保育が実践できるような環境づくりに努めていきたい。

3. 今後の課題、取り組んでいきたいこと

- 1 こどもの木かげ、玉成幼稚園が大切にしていきたい保育を再検討し、誰もがわかりやすい教育課程を作成する
- 2 さまざまな子どもたちの姿をしっかり捉え、個別支援のプログラムを作成し、加配・支援センター・ケースカンファレンス等とのつながりを持つ
- 3 保育の開示・開かれた幼稚園を目指し、地域とのつながりを広め深めていく
- 4 子育ての支援センターとしての役割が果たせるよう、短時間・長時間の子どもを区別なく誰もが利用できる預かり保育の実施
- 5 確実な人材確保ができるよう現職が満足できる環境を構築していく

【運営委員（学校関係者評価）の評価】

1 評価項目の達成および取り組み状況について

自己評価では、コロナ禍が続く中、状況を判断しながら感染対策などの健康と安全に関する項目や子どもの最善の利益を追求する項目が達成されており、職員の方々のご尽力の賜物であろう。さらには数年ぶりの夏季プール活動の実施や夏休み期間を利用した園庭整備などを行い環境整備も整えることができた。また、遠足やお泊まり保育、ページェントなどの行事も滞りなく行うことができた。特に運動会は数年ぶりに松庵小学校の校庭で実施され、園児保護者ともに楽しいひと時を過ごすことができた。一方で職員のスキルアップを図る研修への参加は課題となっているように見受けられる。

2 今後のとりくみ

ここ数年は目の前の出来事に対応していくことが精一杯という状態であったが、次年度以降はやっと少しずつ色々な面で余裕が出てくるものと思われる。今年度検討してきた預かり保育であるほしくみの利用規定の拡大や長時間保育のひかりのこにじのへの受け入れ人数増加などが次年度からスタートすることとなる。これらは実施後の実際の様子を見ながら今後の取り組みに反映させていくことになる。また、木かげ全体としても幼稚園、保育園さらには保育専門学校と定期的なミーティングなどを行い連携を図って行く。さらに、現場の先生方をはじめ職員の定着が安定的な保育に繋がるため、職員間でより一層のコミュニケーションを取り働きやすい労働環境を構築しつつ、日々子どもに向かい合って頂きたい。

3 総合所見

まだまだコロナ禍の状況が見通しづらい中、状況を見つつ様々な対応を取りながら保育を進めた一年であった。行事についてはほとんどにおいてコロナ前のレベルでの実施がなされ、現場の先生方はもとより園全体の職員の方々のご努力によるものと言えよう。今後はコロナ禍が収束の方向になりつつも、この数年で社会情勢や保護者の働き方の変化など子どもを取り巻く環境は大きく変化している。その中で玉成幼稚園に求められる役割は何なのかを今一度再検討していく必要がある。自己評価の「今後の課題、取り組んでいきたいこと」にも挙げられているように、まずは教育過程を再作成することを通して大切にしたい保育について職員全体で議論を深めて頂きたい。また、園の方針や考えなどは保護者に寄り添った丁寧な説明を行いお互いの理解を深めていくことをお願いしたい。